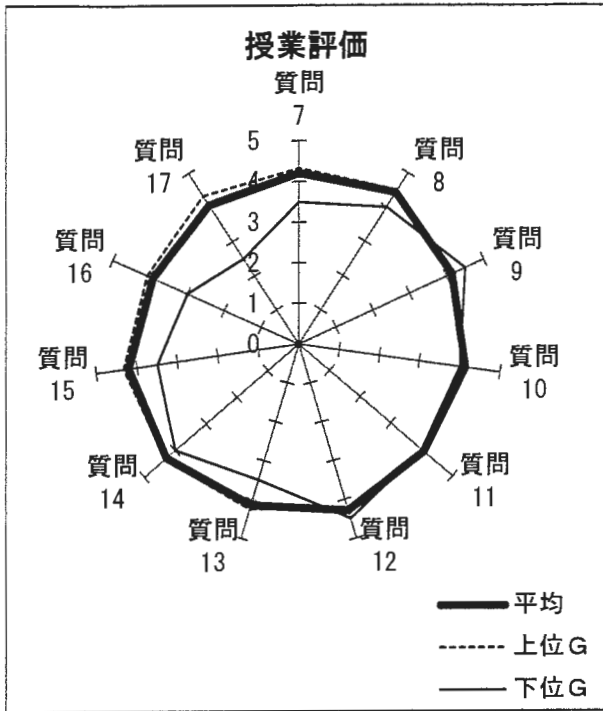


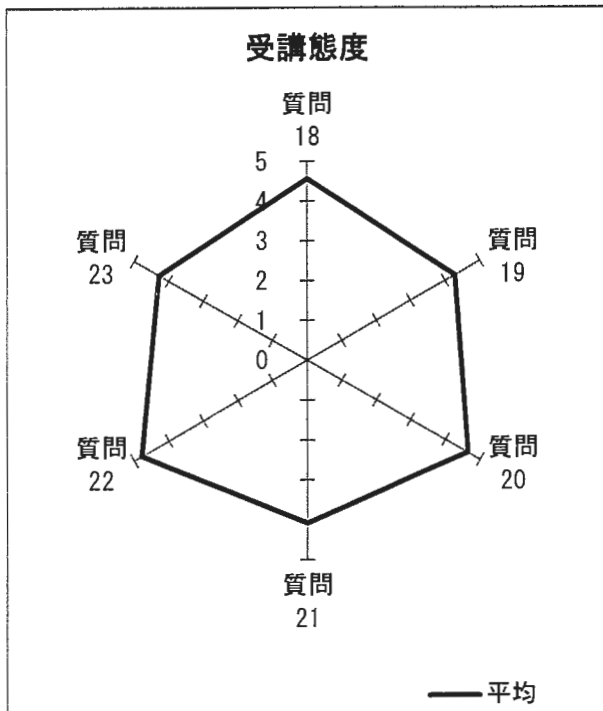
科目コード 702 (2017年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 吉田 大介 テキスタイルマテリアル実習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.3	3.5
質問 8	4.4	4.5	4.0
質問 9	4.1	4.1	4.5
質問10	4.1	4.2	4.0
質問11	4.1	4.1	4.0
質問12	4.3	4.3	4.5
質問13	4.1	4.3	3.5
質問14	4.3	4.3	4.0
質問15	4.2	4.3	3.5
質問16	3.9	4.1	3.0
質問17	4.1	4.3	2.5
平均	4.2	4.3	3.7

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.3
質問20	4.6
質問21	4.1
質問22	4.8
質問23	4.3
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	吉田大介	テキスタイルマテリアル実習	16

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と次年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

これは、当学科の授業科目の中に多く存在する実験・実習科目についての評価である。本学では今までこのような実験・実習科目についての評価・分析はあまりなされていなかった様なので、継続的に評価分析をおこなってきた。

2009年度の同じ科目の授業評価の中で評価の低かったのは「授業への学生の興味・関心の喚起度」平均評価3.8であったが、今回2017年度の評価は平均3.9であった。それ以外の項目については4.1以上の評価でやや満足できるものであると考えている。とくに「教員の時間遵守」「教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）」と「学生の理解度の確認と授業への反映」「教員の話し方」に一定の評価を得た事であるが、この間の取り組みの成果としては不満足である。

これらの授業を実施するで特に重要なものであると考えているのは、まず「安全性」である。当学科では分析、染色、制作などに関する実験・実習において劇物、毒物、危険な機器を扱う場合が少なからずある。これらの状態・性質などをよく理解して充分注意して扱わせる事が大切である。また、履修者数、履修者の習熟度合いなどを考慮して臨機応変に危機を回避する技能が担当者に求められるし、履修者に周知せしめる能力も必要である。

さらにその上で、実験・実習を通してその内容を理解し、技能を会得させるのであると考える。

II. 次年度に向けての取り組み

2018年度担当科目名：同科目

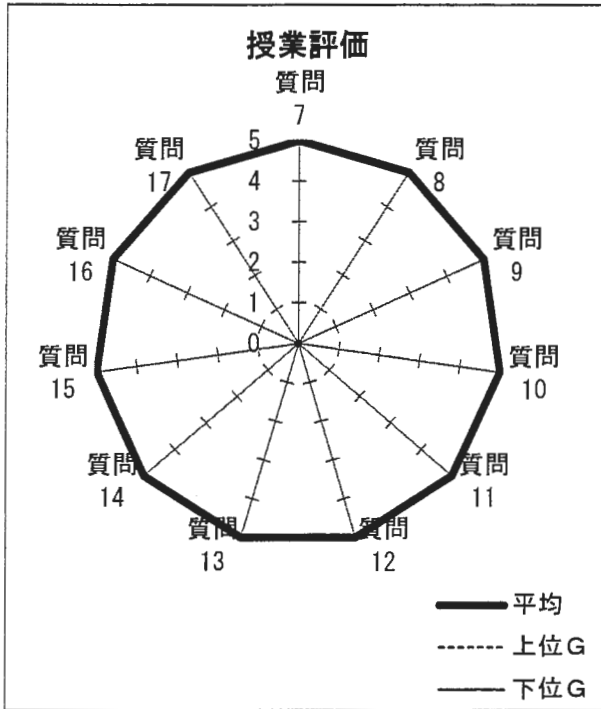
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

繰り返すが、実験・実習の目的は一つの結論を導きだすだけではない。ある過程をトレースすることで、そこで起こり、観察されるあらゆる事象と結論との相関を考察する事で、知識と方法論を学び、技能を発達させることが、後の研究や社会での仕事に活かされると考えている。しかしながら、現学生の多くは単に結論を求める事を急ぎすぎる傾向にある。(センター入試の弊害であろうか)

実験・実習のプロセスを通じて上記の様な「科学する力」と「問題解決のセンス」を養わせる授業をしたいと思っている。

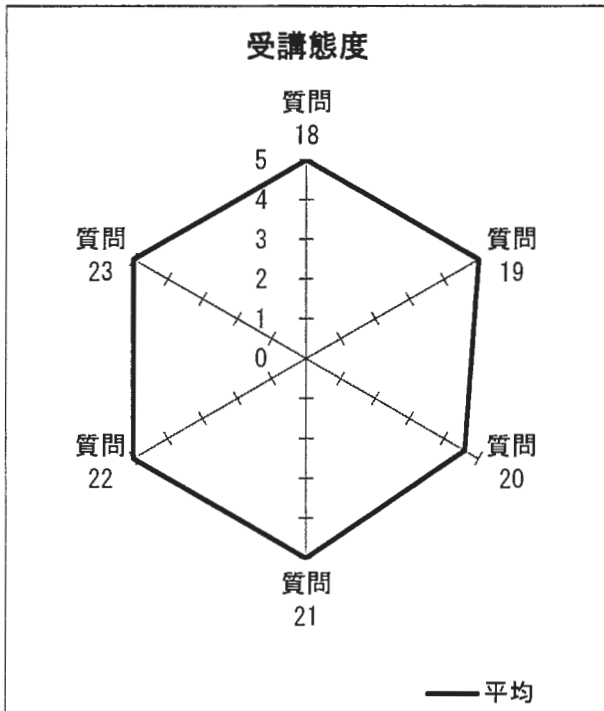
科目コード 710 (2017年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 吉田 大介 学科専門セミナー



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	4.6
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.9

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	吉田大介	710 学科専門セミナー	6

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と次年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

これは、生活デザイン学科の授業科目中に存在する専門必修科目についての評価である。本学では今までこのようなセミナー形式（実習を含む）の科目についての評価・分析はあまりされていなかった様なので、継続的に評価分析をおこないたいと考えていた。

少人数のセミナーであった為か、授業評価の中で全ての項目について非常に高い評価で満足できるものであると考えている。とくに「教員の話し方」と「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」に高い評価を得た事は、今までの取り組みの成果であろうと安心できる。ただ本当に客観的な評価であるかどうかは問題が残るであろう。

これらの授業を実施する上で特に重要なものであると考えているのは、まず「安全性」である。当学科では分析、染色、制作などに関する実験・実習において劇物、毒物、危険な機器を扱う場合が少なからずある。これらの状態・性質などをよく理解して充分注意して扱わせる事が大切である。また、履修者数、履修者の習熟度合いなどを考慮して臨機応変に危機を回避する技能が担当者に求められるし、履修者に周知せしめる能力も必要である。

さらにその上で、このような実習を通してその内容を理解し、技能を会得させるのであると考える。

II. 次年度に向けての取り組み

2018 年度担当科目名に同科目はない

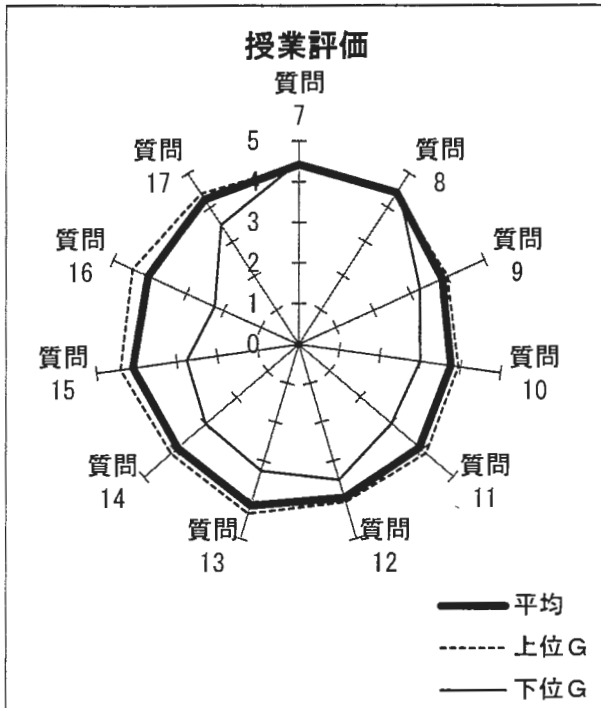
（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

重ねて述べるが、実験・実習の目的は一つの結論を導き出すだけではない。ある過程をトレースすることで、そこで起こり、観察されるあらゆる事象と結論との相関を考察する事で、知識と方法論を学び、技能を発達させることが、後の研究や社会での仕事に生かされると考えている。しかしながら、現学生の多くは（正解の？）結論を求める事を急ぎすぎ、面倒なことを嫌がる傾向にある。

大学の授業の真の目的は講義・実験・実習を通じて上記の様な「科学する力」と「問題解決のセンス」を養わせることであると思っている。

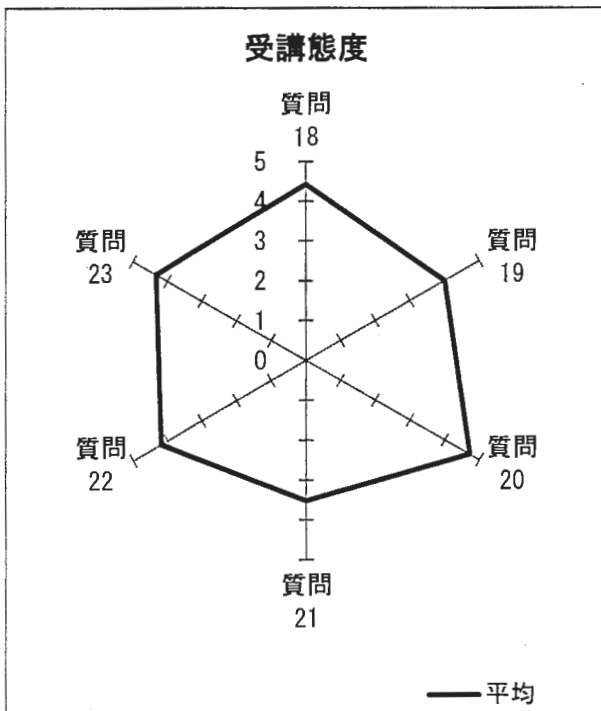
科目コード 713 (2017年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 津田 礼子 デッサン



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.4	4.5
質問 8	4.4	4.4	4.5
質問 9	3.9	4.0	3.3
質問10	3.8	3.9	3.0
質問11	3.9	4.1	3.0
質問12	4.0	4.1	3.5
質問13	4.1	4.4	3.3
質問14	3.9	4.1	3.0
質問15	4.1	4.4	2.8
質問16	4.0	4.5	2.3
質問17	4.2	4.4	3.5
平均	4.1	4.2	3.3

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.0
質問20	4.7
質問21	3.5
質問22	4.2
質問23	4.3
平均	4.2

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担 当 者 名	科 目 名	履 修 者 数
健康生活学部	生活デザイン学科	津田 礼子	デッサン	24

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

デッサンはマンツーマンでの授業が基本であるので、毎時間、全受講生に対し個別に指導することを心掛けている。今は非常勤の先生にも手伝っていただいて 2 人で指導をしているが、全受講生を丁寧に見て回るには、いつも時間が足りない。

遠近法、明暗法による立体把握を徹底するため授業計画はシステマティックな方法を導入している。しかし、今回の授業評価はあまりよくなかった。よくない評価は質問 9 (平均 3.9)、質問 10 (平均 3.8)、質問 11 (平均 3.9)、質問 14 (平均 3.9) であった。「教員の話し方」、「教材・機器・板書等の効果的な使用」、「教員の説明のわかり易さ」、「学生の理解度の確認と授業への反映」である。

デッサンでは機器を用いず、板書の代わりに大きなスケッチブックに書き、描きながら、また学生一人一人のデッサンに手を入れながらの指導を行っている。機器を使わない方法について「なぜなのか」を説明する必要があるかもしれない。教員の話し方、説明のわかり易さ、学生の理解度が十分ではない。デッサンの内容について、より簡単にわかり易い方法を検討する必要があると感じる。

II. 2018 年度に向けての取り組み

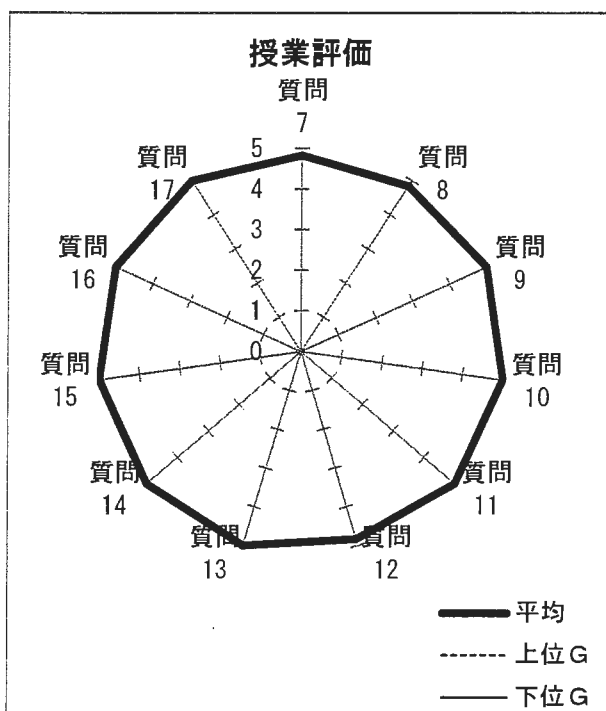
2018 年度担当予定科目名： デッサン

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

モチーフを一つに限定し、形体の捉え方を十分に把握させるところから始める。各テーマは単純化し、最後に複合的なモチーフの組み合わせに進むよう、内容を構成する。

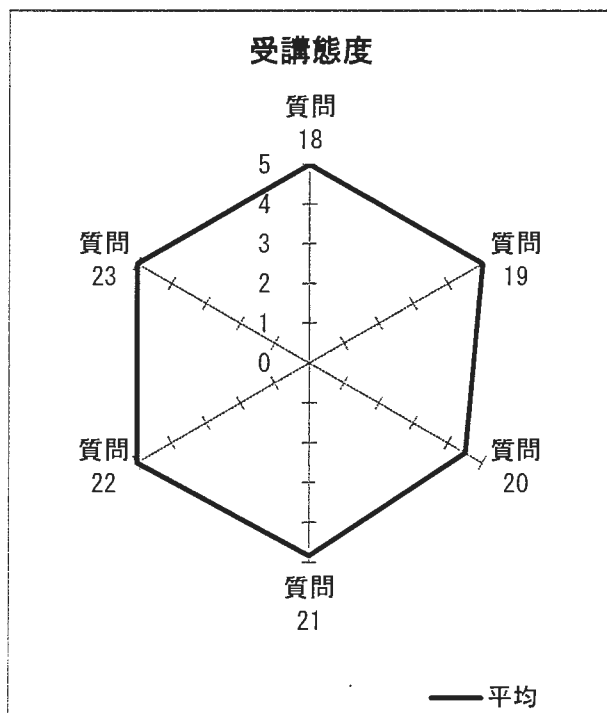
科目コード 734 (2017年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 寺田 貴子 卒業研究



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	4.5
質問21	4.8
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.9

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活	生活デザイン	寺田 貴子	卒業研究	7

I. 分析と評価

本授業に対する質問項目の7から17について、各評価の平均値は4.8から5.0の範疇にあり、全平均値は5.0であった。最も評価が高い5.0を示した項目は全11項目中9項目あり、82%を占めた。その内訳は、質問9「教員の話し方」、質問10「教材・機器・板書等の効果的な使用」、質問11「教員の説明のわかり易さ」、質問13「質問機会の確保と質問への適切な対応」、質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」、質問15「(自分は) 授業を理解できたと思うか」、質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」、質問17「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」であった。次いで、評価が4.8となった質問は3項目あり、質問7「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」、質問8「教員の授業時間遵守」、質問12「教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)」であった。

全11項目の質問に対する評価結果を示した「くもの巣グラフ」の形状は、大きな円に近く、評価のばらつきが小さい、バランスがとれた形であることから、本授業は受講生から好評価を得たとみなすことができる。

他方、学生自身の受講態度に対する質問項目の18～23について、最も評価が高い5.0を示した項目は6項目中4項目あり、全体の67%を占めた。内訳は、質問18「(自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか」、質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」、質問22「レポート・課題等に積極的に取り組んだか」、質問23「私語・携帯電話等の自粛、教員および他者の発言傾聴」であった。次いで、質問21「授業の予習・復習を行ったか」が4.8で、最も評価が低かった項目は質問20「欠席回数」の4.5であった。

全6項目の質問の平均値は4.9であり、その「くもの巣グラフ」の形状は大きな正六角形に近く、評価のばらつきが小さい、バランスがとれた形であることから、受講生の態度は概ね良好であったことがわかる。

本授業「卒業研究」は、生活デザイン学科の専門分野における選択科目であり、免許や資格等に直接関わるものではないが、3年次後期・4年次前期の必修科目「学科専門セミナー」と密接にリンクしている、4年間の学びの集大成ともいえる課題に取り組む授業である(受講生=ゼミ生)。受講生にとっては、予想以上に課題制作に手間どり、なかなか思うようにはかどらないことに苦戦したものの、根気強く丁寧に取り組んだことでの達成感はいずれに得られたようであった。

以上のように、本アンケートの結果から、担当した授業「卒業研究」は受講生から高い評価を受け、受講生も意欲的に授業にとり組んだことが推察できると分析・評価する。

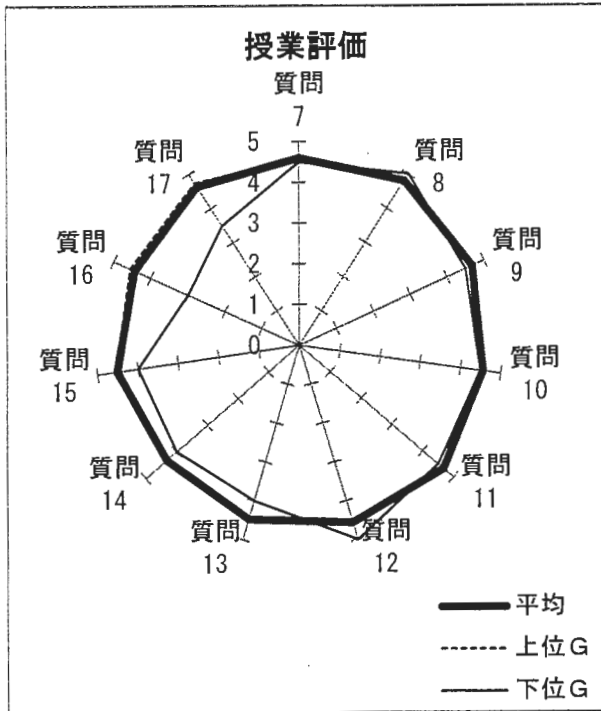
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：卒業研究

- (1) 授業評価の平均値が5.0と高かった9項目に関しては、次年度も継続して真摯な姿勢で取り組む。
- (2) 授業評価の平均値が4.8とやや低かった3項目の、目標説明、授業時間遵守、授業環境に対する配慮(私語の注意等)については、実施した内容を振り返り、点検してさらに改善をはかっていく。
- (3) 本授業は、学科専門科目として2018年度前・後期にも開講され、引き続き担当する予定である。受講生が満足し、かつ、質の高い授業となるように、継続して改善に取り組んでいく。

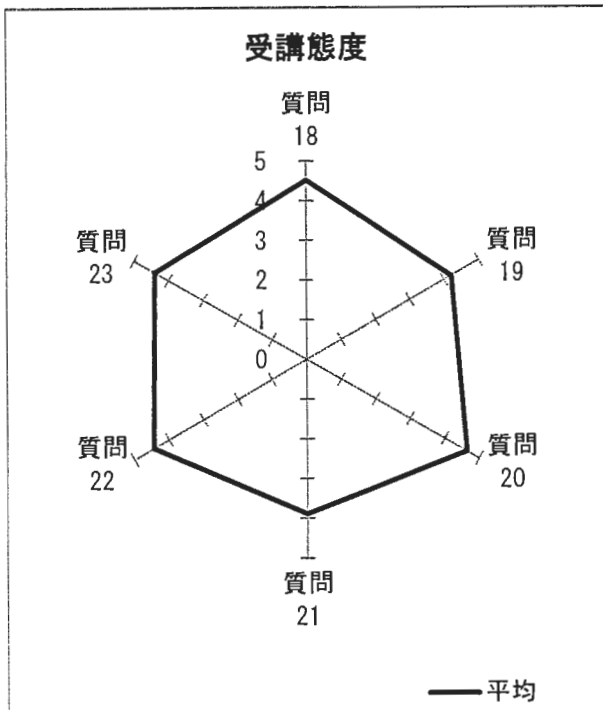
科目コード 736 (2017年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 浜谷 信彦 デザイン論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	4.5
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.7	4.7	4.5
質問10	4.6	4.6	4.5
質問11	4.7	4.7	4.5
質問12	4.6	4.5	5.0
質問13	4.5	4.5	4.0
質問14	4.3	4.3	4.0
質問15	4.5	4.6	4.0
質問16	4.4	4.6	3.0
質問17	4.6	4.7	3.5
平均	4.6	4.6	4.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.2
質問20	4.6
質問21	3.9
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	浜谷信彦	デザイン論	26

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この講義科目は、生活デザイン学科の総括的な内容であり、モノ・情報・空間などデザインの各領域に共通する理論と感性、デザインの思考や社会的な意義を理解し、デザインを学ぶ上での礎を築くことにある。また、開放科目に設定しているため、他学科からの受講者にも分かり易いように心がけた。

授業評価の全体の平均は4.6で、すべての項目が4.3以上(4.8~4.3)であった。全体的にある程度まとまっていた。最も高かったのは質問8「教員の時間遵守」の4.8、次に質問9「授業の目的・内容のシラバスでの提示」4.7と質問11「教員の説明の分かり易さ」4.7であった。中では平均4.3と低かった質問14の「学生の理解度の確認と授業への反映」について、授業中に受講者それぞれが理解できているか、確認の機会、方法や頻度について更に工夫をしていきたい。

講義の中では小さな課題も取り入れており、受講者である学生の積極的な参加のおかげで、おしなべてよい授業になったことを感謝したい。

II. 2018年度に向けての取り組み

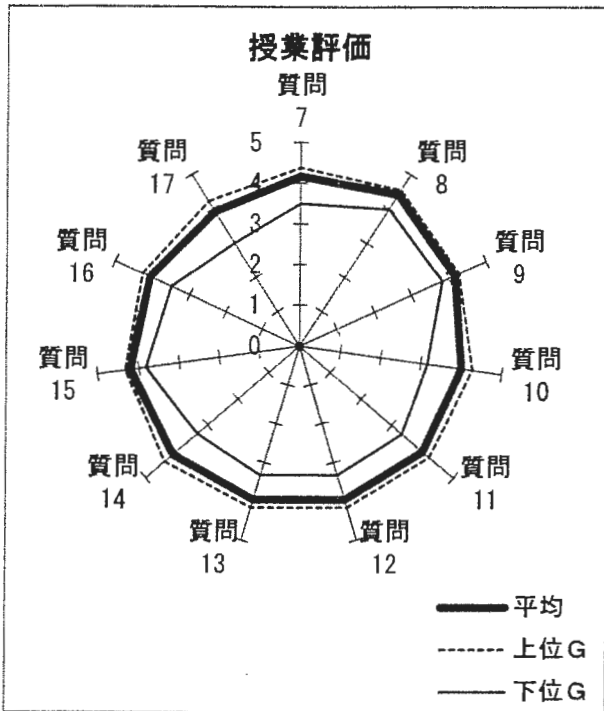
2017年度担当予定科目名：デザイン論
プロダクトデザイン論
ビジュアルデザイン論
グラフィックデザイン
デジタルアート
CGデザインI
CGデザインII
プロダクトデザインI
プロダクトデザインII
インダストリアルデザイン
陶芸
専門セミナー (3年・4年)
卒業研究
生活デザイン研修
キリスト教と文化

現在、IOT等の情報化や社会・環境の変化により、暮らしやデザインを取りまく状況も急速に変化している。すべての受講者へ現代におけるデザインの社会的意義や面白さが伝わるように、今後のデザインの礎となる考え方が身につくように、内容の研究を重ねていきたい。

また、授業において学生が能動的に参加する場を増やすように、小さな課題や発表等についても工夫も重ねていきたい。

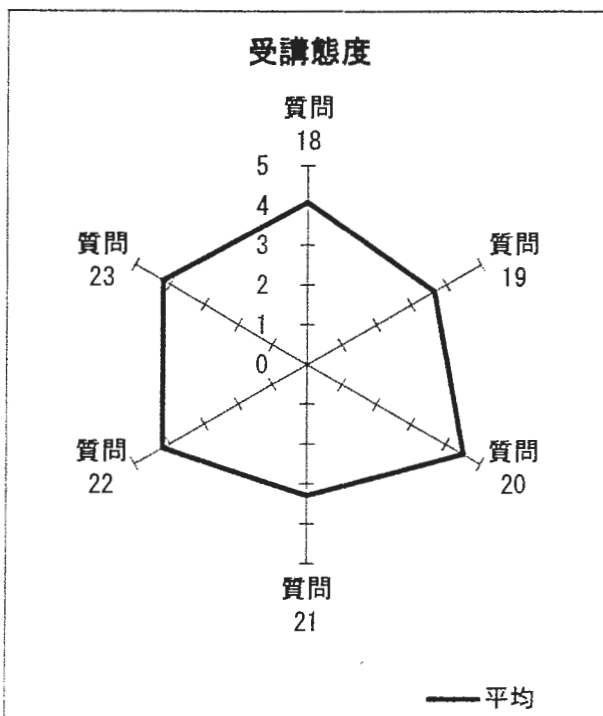
科目コード 751 (2017年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 橋口 剛 建築構造学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.4	3.5
質問 8	4.4	4.6	4.0
質問 9	4.2	4.3	3.8
質問10	4.0	4.3	3.2
質問11	4.0	4.2	3.3
質問12	4.0	4.2	3.3
質問13	4.0	4.2	3.3
質問14	4.1	4.4	3.3
質問15	4.2	4.3	3.8
質問16	4.1	4.3	3.5
質問17	3.9	4.2	3.0
平均	4.1	4.3	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.1
質問19	3.7
質問20	4.5
質問21	3.3
質問22	4.2
質問23	4.2
平均	4.0

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自業、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン	橋口 剛	建築構造学	24

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

総合評価が4.0を超えており、まずまずの評価と判断しているが、個別評価からは、いくつか反省点が見られる。特に下記の点で今後改善の取り組み、授業への興味関心は授業内容として、建築と社会との繋がりや、建築をどのように考えて行くかなど、比較的興味を引きやすい内容の授業とし、トピックで取り上げたにもかかわらず、総合3.9となっており、さほど高くない評価となっている。

建築分野のイントロダクションとして位置付けたこの授業であるが、建築分野の対象範囲が広範囲に登るため、各内容のつながりが分かりにくく、抽象的かつ断片的になりすぎたところがあったものと推測している。

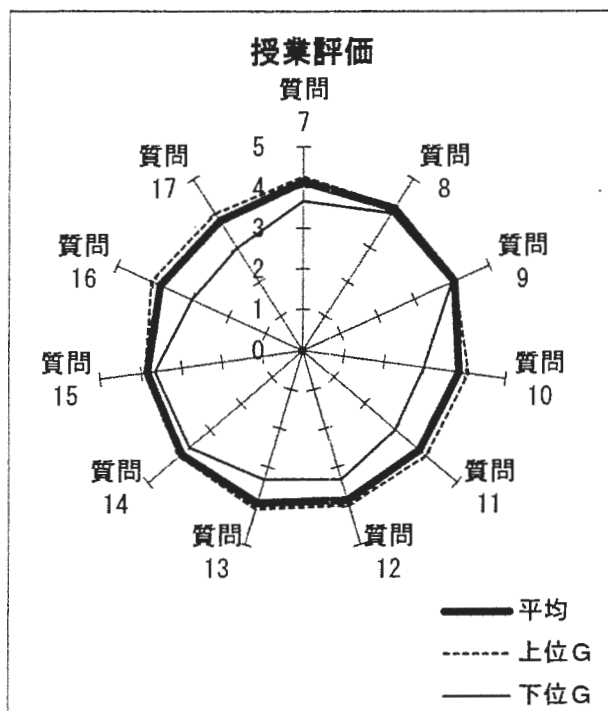
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：建築構造学

学生に理解を促し、より興味を引き出すためには、テキストを上手に活用し体系的に授業を行いつつ、学生が経験的に理解しやすいように具体的に授業を行う必要があるものと考えている。

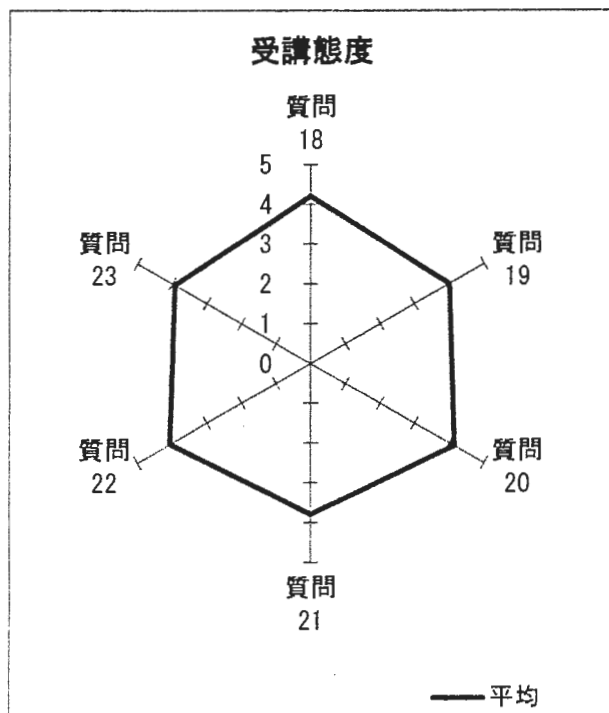
科目コード 754 (2017年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 橋口 剛 建築計画



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.1	4.3	3.7
質問 8	4.1	4.2	4.0
質問 9	4.1	4.1	4.0
質問10	3.9	4.1	3.0
質問11	3.8	4.0	3.0
質問12	3.9	4.0	3.3
質問13	3.9	4.1	3.3
質問14	3.9	4.0	3.7
質問15	3.9	3.9	3.7
質問16	3.9	4.1	3.0
質問17	3.8	4.0	3.0
平均	3.9	4.1	3.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	4.0
質問20	4.1
質問21	3.8
質問22	4.1
質問23	3.9
平均	4.0

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン	橋口 剛	建築計画	17

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

総合評価が3.9となっており、まずまずの評価と言えるが、課題となる部分も散見されるので、改善を図りたいと考えている。建築計画という、建築系科目の中核をなす授業であるため、建築を総合的に論述する講義内容となっている。また、当学科は建築専門の学科ではないため、この講義を補えるようなその他の授業の裾野が狭く、そのため、この授業にて広範囲の内容について説明する必要性が生まれ、15回の授業の中では深い理解につながるような内容とすることが難しい側面がある。

また、全ての学生が建築に興味を持っているわけではないので、学生の興味をどのように書き立てて行くかということも課題と言える。

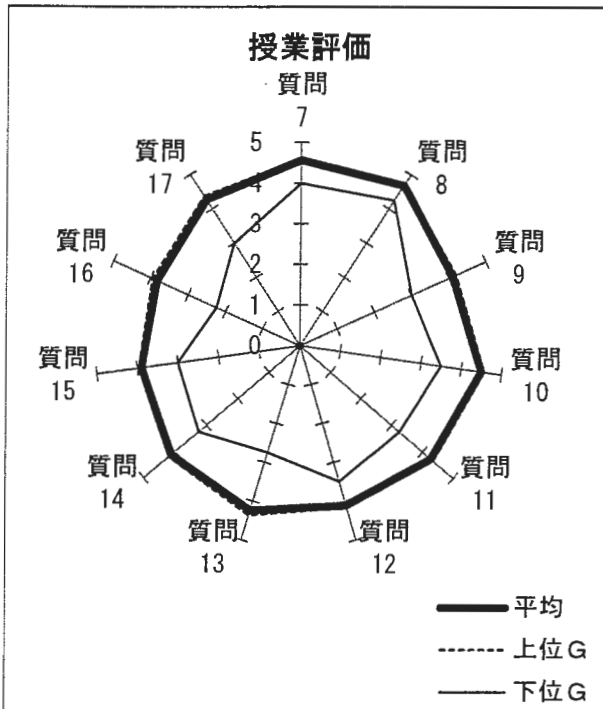
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名： 建築計画

今後は、ワークショップや学生同士の議論の場を設けるなど、アクティブラーニングを授業に導入し、できるだけ学生の自発性を啓発するような授業を取り入れ、改善を図っていきたいと考えている。

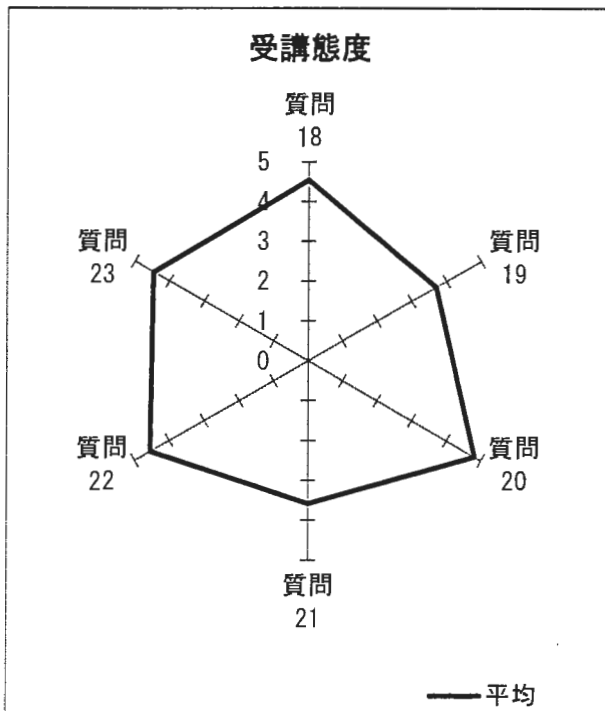
科目コード 764 (2017年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 宇佐美 寛 情報処理基礎



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	4.0
質問 8	4.7	4.7	4.3
質問 9	4.1	4.2	3.0
質問10	4.5	4.6	3.5
質問11	4.3	4.3	3.3
質問12	4.1	4.2	3.5
質問13	4.2	4.4	2.8
質問14	4.1	4.2	3.3
質問15	3.9	4.0	3.0
質問16	3.8	4.0	2.3
質問17	4.3	4.4	3.0
平均	4.2	4.3	3.3

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	3.7
質問20	4.8
質問21	3.6
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	宇佐美 寛	情報処理基礎 (健食)	55名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の調査項目11項目（質問7～17）のうち、評価平均4.0以上が9項目、4.0未満が2項目であり、11項目全体の平均値は4.2であった。2016年度の「情報処理基礎」の授業評価と比較すると、質問15の「(自分は) 授業を理解できたと思うか」を除く項目で評価平均が若干上昇し、11項目全体の平均値は0.1ポイント上昇している。

質問15の評価については、2016年度と比較して、授業内容を一部変更したことが影響している可能性がある。具体的な変更点は、授業内に行っていた演習の一部を課題に回し、Wordの長文作成機能とExcelのピボットテーブルに関する内容を新規に取り入れたことである。演習の一部を課題に回したのは、習熟度の高い学生には授業内に課題に取り組みさせることで、演習によって学生間に生じる時間差を調整するためである。

授業評価の各項目の数値自体から見ると、高い評価を得たとは言えない状況である。授業の内容や進め方に関し、さらに工夫していく必要があると考える。

II. 2018年度に向けての取り組み

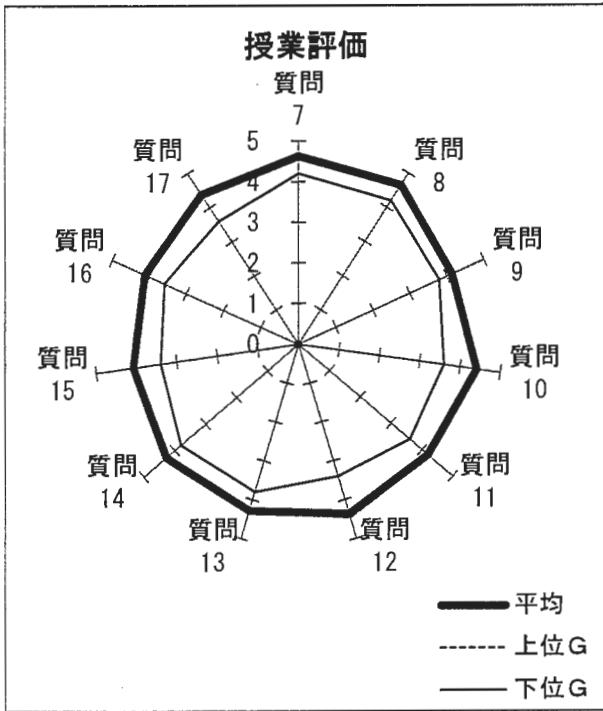
2018年度担当予定科目名：情報処理基礎

授業内の演習と授業外の課題について、それぞれの内容や量、両者のバランスについて検討する。また、課題については、取り組む上での手がかりとなる事項を十分に伝えておくようにする。

授業で用いている自作プリントを含め、説明方法について検討する。授業では市販テキストを用いず、自作プリントのみを使用しているが、自作プリントはページ数の関係もあって、文章が中心で操作画面の図は必要最小限に絞って掲載している。プリントで図を増やすなど、分かりやすさを高めていく。

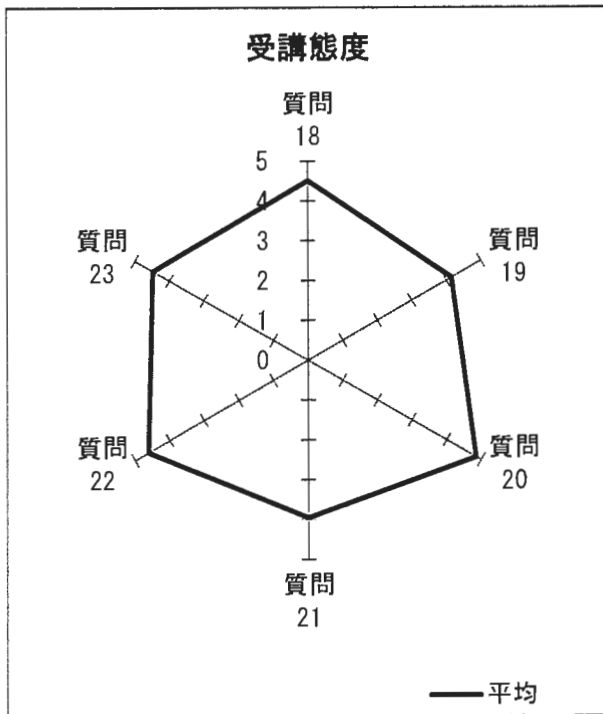
科目コード 765 (2017年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 宇佐美 寛 情報処理基礎



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	4.2
質問 8	4.6	4.7	4.2
質問 9	4.1	4.2	3.8
質問10	4.4	4.5	3.6
質問11	4.2	4.2	3.6
質問12	4.4	4.5	3.4
質問13	4.3	4.3	3.8
質問14	4.3	4.3	3.8
質問15	4.1	4.1	3.4
質問16	4.1	4.2	3.6
質問17	4.4	4.5	3.6
平均	4.3	4.4	3.7

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.1
質問20	4.9
質問21	4.0
質問22	4.6
質問23	4.5
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	宇佐美 寛	情報処理基礎（看護）	77名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の調査項目11項目（質問7～17）の評価平均は4.1から4.6の範囲に分布し、11項目全体の平均値は4.3であった。2016年度の「情報処理基礎」の授業評価と比較すると、各項目とも変化は少なく、11項目全体の平均値も変化はない。

2016年度と比較して、授業内容を一部変更したが、評価への影響は余りなかった。具体的な変更点は、授業内に行っていた演習の一部を課題に回し、Wordの長文作成機能とExcelのピボットテーブルに関する内容を新規に取り入れたことである。演習の一部を課題に回したのは、習熟度の高い学生には授業内に課題に取り組みさせることで、演習によって学生間に生じる時間差を調整するためである。

授業評価の各項目の数値自体から見ると、高い評価を得たとは言えない状況である。授業の内容や進め方に関し、さらに工夫していく必要があると考える。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：情報処理基礎

授業で用いている自作プリントを含め、説明方法について検討する。授業では市販テキストを用いず、自作プリントのみを使用しているが、自作プリントはページ数の関係もあって、文章が中心で操作画面の図は必要最小限に絞って掲載している。プリントで図を増やすなど、分かりやすさを高めていく。

授業内の演習と授業外の課題について、それぞれの内容や量、両者のバランスについて検討する。また、課題については、取り組む上での手がかりとなる事項を十分に伝えておくようにする。